

ピースアクション in あおもり～平和のバトンを未来につなごう～開催報告

1. 日 時 2026 年 6 月 27 日(土)

【第 1 部】 10 時 00 分～12 時 30 分

【第 2 部】 13 時 30 分～15 時 00 分

2. 場 所 ねぶたの家ワ・ラッセ イベントホール

3. 参 加 97 名（生協関係者 60 名、諸団体等 37 名）

4. 目 的

被爆・戦後 81 年、核兵器も戦争もない世界をめざして、「今日の聞き手は明日の語り部」の活動を継続し、被爆者や家族の体験や戦争の実相を受け止め、幅広い世代に継承していくことをめざします。

5. 対象：生協組合員・役職員、協賛団体、学生、市民

6. 主催：青森県生協連 共催：青森県原爆被害者の会

*本企画は国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の家族・交流証言者等派遣事業によるものです。

協賛：原水爆禁止青森県協議会、原水爆禁止青森県民会議

後援：青森県・青森県教育委員会・青森市・青森市教育委員会

青森県農業協同組合連合会・青森県漁業協同組合連合会・青森県森林組合連合会・

ワーカーズコープ北東北事業本部・青森県労働者福祉協議会

青森放送・青森テレビ・青森朝日放送・東奥日報・デーリー東北・陸奥新報



6. プログラム

時間	企画内容
10：00	開会宣言 第1部司会 青森県生協連三浦雅子
10：01	開会挨拶 青森県生協連 副会長 今淳一
10：05	講話 「広島と長崎で被爆した祖父山口彊からバトンを受けて・・・」 家族証言講話会講師 長崎大学平和講座非常勤講師 原田小鈴さん（被爆3世）
11：00	ビデオ上映（10分程トイレ・水分補給時間ののち） 「80年目の夏・青森に生きる二重被ばく者の今」制作：青森放送
11：30	質問・感想コーナー
11：50	県内生協の平和の取り組み報告 1. 青森県民生協 「夏休み原爆展」の取り組みについて 報告者：市川六男 生活文化部長 2. 青森保健生協「平和活動の軌跡 平和街宣行動」 報告者：小山内和子 社保平和委員会 委員長 3. コープあおもり 被爆・戦後80年の平和の取り組みについて 報告者：後藤由紀子 常任理事
12：25	第1部閉会の挨拶 司会
	昼食・休憩（12：30～13：30）
12：30	※ビデオ上映（13：00～13：25） 「2024年ノーベル平和賞 日本被団協代表団の記録」（21分）
13：30	第2部開会の挨拶 青森県原爆被害者の会 佐藤孝雄
13：35	ビデオ上映・講話 「キノコ雲の上と下の物語～孫たちの葛藤と軌跡」原田小鈴さん
14：50	質疑
14：55	第2部閉会の挨拶 司会

7. 【第1部】10時00分～12時30分 司会：青森県生活協同組合連合会

(1) 副会長挨拶

県生協連副会長の今淳一氏より、主催者を代表して挨拶がありました。

昨年度県生協連では、「被爆・戦後80年」を迎え、核兵器も戦争もない世界をめざした取り組みとして、青森市内在住の二重被ばく体験者である福井絹代さんからお話を聞き、「今日の聞き手は明日の語り部」をスローガンに、伝え広げる活動をすすめてきた。戦争の不安が世界を覆う現在、被爆や戦争の体験の継承を続けていく事が大切だ。この度長崎原爆死没者追悼平和祈念館の派遣事業により、祖父山口彊（つとむ）さんの意思を継いで活動されている原田さんにお越しいただき、大変感謝している。



今淳一副会長



司会の三浦雅子さん

(2) 講話 「広島と長崎で被爆した祖父山口彊からバトンを受けて…」

続いて、広島と長崎で原爆被害を受けた二重被爆者の山口彊さん（2010年、93歳で死去）の孫で、長崎大学平和講座非常勤講師の原田小鈴さんから、ご講演いただきました。

90歳より語り部を始めた、祖父山口彊さんの被爆体験を、映像や紙芝居を交えて伝えながら、「原爆とは3,000～4,000度の爆風と放射能による無差別殺戮と破壊の兵器であり、命を奪い身体を蝕み、偏見と差別の中で、身体と心を傷つけるもの」、その実相を残されるべき事実として、多くの人に知ってもらいたいと語りました。被爆から81年となり、被爆者が年々少なくなる中で「昨日今日まで聞けた人から明日あさっては聞けないかもしれない」。若い世代につないでいきたい、長崎では小学校1年生から平和の学習を行っている。平和のバトンを渡していこうと呼びかけました。



原田小鈴さん



(3) ビデオ上映「80年目の夏・青森に生きる二重被爆者の今」制作：青森放送

映像に登場されている二重被爆者の福井さんも来場されました。

(4) 質問・感想コーナー

弘前大学生協学生委員からの「戦争体験のない学生にこのような実相をどう伝えていけば良いのか」との質問などが出され、若い世代への継承について、講師の体験も踏まえた交流の場となりました。



会場から質問する永島さん

(5) 県内生協の平和の取り組み報告

青森県民生協市川六男さんより「夏休み原爆展」の取り組みについて、青森保健生協小山内和子さんより「平和活動の軌跡 平和街宣活動」コープあおもり後藤紀子さんより「被爆・戦後80年の平和の取り組み」について報告がありました。



市川六男さん



小山内和子さん



後藤由紀子さん



原田さんとの再会を楽しみに
来場された福井絹代さん



二重被爆者 山口彊さんの遺言：
All For One. One For All.



著書購入者に、メッセージ入りのサインをしたためる原田さん

★ビデオ上映：「2024 年度ノーベル平和賞 日本被団協代表団の記録」13:00～13:25

8. 【第2部】13時30分～15時00分 司会：青森県原爆被害者の会 講話「キノコ雲の上と下の物語 ～孫たちの葛藤と軌跡」

第2部では、原田小鈴さんより、広島と長崎に原爆を投下した爆撃機の搭乗員ジェイコブ・ビーザーさん（故人）の孫のアリ・ビーザーさんとの出逢いと交流の中で、葛藤しながら友情を深めてきた軌跡を、映像とともにお話しいただきました。

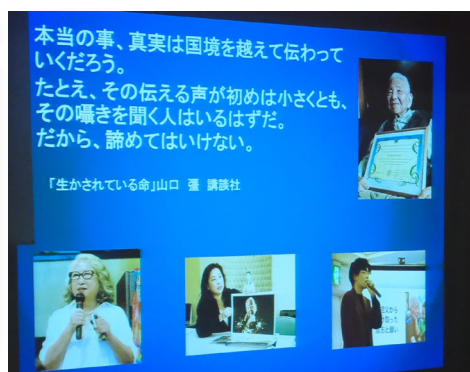


司会の佐藤孝雄さん

13年前、アリ・ビーザーさんが被爆2世の原田さんのお母さんに会うために来ると連絡が入った時は、原爆を投下した米国人兵士の孫が、何故日本人の被害者家族にわざわざ会いに来るのかと思った。何度も日本を訪問するアリとの対話の中で、お互いの家族の苦しみは自分たちの世代になっても消えない、「核と人間は共存できない」という事を確認し合い、共に活動するようになった。被爆80年に向けて、「キノコ雲の上と下」にいた祖父をもつ孫たちの声が、核兵器を持ち続ける世界への警告と、人類を平和に導く希望になると信じて、『「キノコ雲」の上と下の物語 孫たちの葛藤と軌跡』は紡がれ、書籍となってこの世に出された。覚悟と勇気を持って会いに来てくれたアリに心から感謝している。これからも、平和のメッセージを共に世界に届けるために協力していきたい。



右：山口彊（つとむ）さん
左：ジェイコブ・ビーザーさん



（左から）被爆2世の母（山崎年子さん）、3世の原田さん、4世の息子晋之さんの3世代で活動されています。



会場からの質疑の後、原田さんとアリさんの著書を完読した司会者からの質問に答える原田さん。

◆参加者の感想より

山口さんからバトンを受けて語り部をなさっている原田さんの言葉はどれも重く、皆さんの心に残るものだと思っています。私の父も戦地に行かされた世代なので、小さい時から多少は聞いたことはありましたが、やはり多くは語れなかったというのを体験された方々から伝わりました。今日参加して、改めて戦争というのは、やってはいけない事なのにどんどん広がっているのを心配しています。子供達が犠牲になる悲惨な戦争はなくなる事を願っています。

とても中身の濃い良い企画でした。講師のお話しも、聞きやすく、わかりやすかったです。家族みんなで取り組む活動、ご苦労も多いと思います。知ることがとても大事。もっとたくさんの若い人達に関心をもってほしいものです。でも、あきらめず、手ばなせず、しつこく運動は続けるべき。

話を聞くことは、誰でもできるけど、自ら発信する事は難しいと感じる。

生協の平和活動をよく知りませんでした。今後注目し、応援していきたいとおもいます。

被爆3世の方の生の声をきけてよかったです。知ることが大事とおっしゃっていましたが、それを実感しました。中学生の息子もつれてくればよかった…今日はありがとうございました。

今日参加し、講話やビデオ上映を見ることで、改めて被爆したことの大変さを思い知らされた感じがしました。長崎は6才から教育を受けることを聞くと青森県はまだまだ教育が足りないのでは？と感じました。

映画を見られてよかったです。ありがとうございました。生協の取り組みというのは知りませんでした。(アウガのチラシでみました。)先日市民美術館へも行きました。子供さん達がいなのが残念だと思いました。チケットの配布、学校での直接の展示、上映もしていただけたといいなと思いました。

90才から語り部をはじめられ、「私の命をバトンタッチしたい、役割を果たした」という山口さんの想いは、決してムダにされることなく、語り継いでいかなければならないと強く思いました。今日参加させていただき、とても心にひびくところがありました。これから微力ながら努力していきます。ありがとうございました。

立場が違えば考えも違うということ。原田講師の祖父の人間性に感銘を受けました。

原爆は憎いがアメリカ人は憎くないという言葉が残りました。戦争を始めるのは一部のお金持ちが武器を売るために始めていると思う。被害にあうのは何も知らない平和に生きている一般市民。平和を願う声が政治家に届いていない。

4世代にわたって家族の物語を各地で話してくれていることに感動しました。人々の良心が存在していること、対話をして違いを認め合うこと、心はつながるという言葉が印象的でした。平和教育については悩みます。日本人にとって考えようとする時、被害と加害ががっちりとかみあわさって考えるのを難しくしていると思います。声をあげる、行動する、決めて進んでいきたいです。

午前、午後、たくさん話を聞かせていただきありがとうございました。50代ですが、戦争の実相を知らないまま(知ろうとしないまま)、年を重ねてきてしまったなあとはずかしい気持ちになりました。「無知」と「無関心」が一番良くないですね。広島・長崎・沖縄と同じような平和教育を全国の子どもたち(大人にも)してほしい。政府は防衛費を増額することより平和教育にお金をかけてほしいです。アリさんと小鈴さんの交流に涙がでました。

